

外国語教育における小中連携 「アプローチ・カリキュラム」 作成の目的とその活用について



平成31年2月
佐伯市立明治小学校



「なめらかな接続」

- ・卒業前の児童がもつ、中学校授業に対する不安感を解消するための工夫

2つのキーワード

「適度な段差」

- ・中学校授業の指導方法や学習内容について、入学後の生徒が入門期に感じる、負担にならない程度の小学校との違い

「なめらかな接続」で「適度な段差」に向かうことで、小学校での学習に対する自信をもちながら中学生としてのプライドの芽生えを自覚する。

小中連携イメージ

「なめらかな接続」 「適度な段差」

めざす頂上からは素敵な景色が見えそうだ
わくわくするなあ

今までの歩幅や装備ではじめの方は登れそう

小学校
外国語活動

スタート

振り返ると随分登っていた
確実に頂上へ近づいているぞ

小学校外国語科

中学校

小中の間の溝を感じさせずに
橋渡しする

Goal

小学校6年カリキュラム終了後から中学校1年へつなぐ

「アプローチ・カリキュラム」作成

- ◆ 中学校英語科教員が、卒業前の6年生を指導
- ◆ T1が中学校英語科教員、T2が学級担任
- ◆ 単発授業3時間のカリキュラム
 - ・ 1時間だけでも、2時間でもOK
- ◆ 「なめらかな接続」「適度な段差」を目指す
 - ・ 「なめらかな接続」 = 『We Can! 2』 を活用
 - ・ 「適度な段差」 = 中学校らしい指導（正確さ・文法事項）を

小中連携の取組

校種間連携は「アプローチ・カリキュラム」と
「スタート・カリキュラム」で行う

「なめらかな接続」

「適度な段差」

	小学校 アプローチ・カリキュラム	中学校 スタート・カリキュラム
場所／ 指導者	小学校／ T1＝中学校英語科教員 T2＝6年学級担任	中学校／ T1＝中学校英語科教員 T2＝ALT
時 期	小学校6年3学期 (卒業前)	中学校1年1学期 (入学後)
時間数	1～3時間	12時間
教 材	We Can! 2	We Can! 2

	<p style="text-align: center;">小学校</p> <p style="text-align: center;">アプローチ・カリキュラム</p>	<p style="text-align: center;">中学校</p> <p style="text-align: center;">スタート・カリキュラム</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校の学びを振り返り、<u>自身の成長を感じさせ、自信をもたせる。</u> ○中学校英語科教員による指導を受けさせることで、<u>卒業前の児童に中学校の学びに対する期待感をもたせる。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>小学校の学習内容について復習させることにより、中学校での学習のスタートがスムーズにできるようにする。</u>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">意義</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校英語科教員が小学校外国語教育の様子や児童の<u>実態</u>を知り、中学校で入門期の指導（スタート・カリキュラムの内容等）に生かすことができる。 <p style="text-align: right; font-size: small;">佐伯市立明治小学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○複数の小学校から入学生を迎える中学校においては、<u>小学校間の指導内容等のばらつきをある程度ならして、中学校英語科の学びにつなぐことができる。</u>

	<p style="text-align: center;">小学校 アプローチ・カリキュラム</p>	<p style="text-align: center;">中学校 スタート ・カリキュラム</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校6年時に学んだ内容を中心にする。 ○これまでの外国語科と同じ活動を行うが、聞かせたり発話させたりする<u>英語の量を増やす</u>。読んだり書いたりする英語の量も児童の実態を考慮しつつ適度に増やす。 ○<u>正確な発音の学習</u>を体験的に行う。 ○中学校英語科教員が基本的に英語で授業を進め、<u>中学校の授業スタイル</u>を体験させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校6年時に学んだ内容を全て復習として取り扱う。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">留意点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○進学先の中学校英語科教員が中心になって指導する。 ○進学してくる小学校が複数ある場合は、全ての小学校で同様の指導を行う。 	<p style="text-align: right; font-size: small;">佐伯市立明治小学校</p>



使用教材	『We Can! 2』		
	第1時	第2時	第3時
	Unit 7 "This is ME!" "He is famous. She is great." 友達紹介	Unit 8 "What do you want to be?" I want to be a ～. 将来の夢・職業	Unit 1 "This is ME!". その他全てのUnit 既習の表現を使った10文以上の自己紹介
指導者	T1 中学校英語科教員	T2 小学校学級担任	
1 Greeting 3分	Hello, everyone. Let's start E-Time! How are you? I'm happy! We have a special guest today. This is Igawa-sensei. Hello, Igawa-sensei.		We have a special guest today. This is Igawa-sensei. Hello, Igawa-sensei.
2 Warm up 10分	[Small Talk] 中学校教員の自己紹介 自己紹介の中で、児童に質問を投げかけたり、児童の質問に答えたりして、やり取りしながら話を進める。 My name is Yuka Igawa. I am an English teacher of Showa Junior High School. I live in Karas. I like cats. I have two cats in my house. Do you like cats? What sports do you like? ...	[Small Talk] 将来の夢の紹介 T1が自分の将来の夢を紹介する。T2がT1の夢に興味を示しながら自分の夢の事について語る。その後、児童はT1の夢について質問をする。	[Small Talk] 中学生の先輩の自己紹介 T1が自分の将来の夢を紹介する。T2がT1の夢に興味を示しながら自分の夢の事について語る。その後、児童はT1の夢について質問をする。
3 Activity 25分	[Activity] 1 T2がいきままで、T1が2人について質問する。 T1は自己紹介の要領で、T2が質問する。 T1は、T2の質問に答える。 T1は、T2の質問に答える。 T1は、T2の質問に答える。	[Activity] 2 T1が自己紹介の要領で、T2が質問する。 T1は、T2の質問に答える。 T1は、T2の質問に答える。 T1は、T2の質問に答える。	[Activity] 3 T1が自己紹介の要領で、T2が質問する。 T1は、T2の質問に答える。 T1は、T2の質問に答える。 T1は、T2の質問に答える。
4 Reflector 5分	T1が児童数にのりまわりの振り返りを発表する。 T1が今日のあてが達成できたかどうかを振り返る。T2は学習態度、意欲等を評価に評価する。 T1が授業で児童の小学校での英語学習の成果が分かったことに対して、書き言葉の授業を伝えるとともに、この力を中学校での学習でもっと伸ばしていくこと、中学校の英語学習への期待感を述べた。	T2が児童数にのりまわりの振り返りを発表する。 T1が今日のあてが達成できたかどうかを振り返る。T2は学習態度、意欲等を評価に評価する。 T1が授業で児童の小学校での英語学習の成果が分かったことに対して、書き言葉の授業を伝えるとともに、この力を中学校での学習でもっと伸ばしていくこと、中学校の英語学習への期待感を述べた。	T2が児童数にのりまわりの振り返りを発表する。 T1が今日のあてが達成できたかどうかを振り返る。T2は学習態度、意欲等を評価に評価する。 T1が授業で児童の小学校での英語学習の成果が分かったことに対して、書き言葉の授業を伝えるとともに、この力を中学校での学習でもっと伸ばしていくこと、中学校の英語学習への期待感を述べた。
5 Ending 2分	That's all for today. Did you have fun? Thank you, Igawa-sensei. See you next time!	That's all for today. Did you have fun? Thank you, Igawa-sensei. See you next time!	Thank you, Igawa-sensei. See you at Showa Junior High school. I'm waiting for you there.

その場でのやり取り

対話を続ける

既習文を「書く」

1時間の流れ

- ・ 小学校での学習成果を中学校英語科教員が知る
 - ・ 少しの「正確さ」「発音」
 - ・ その場でやり取りしたり、対話を続けたり、既習文を書いたり
 - ・ ほぼ英語で進める中学校英語の授業スタイルを体験
- 中学校英語科教員の意識改革のきっかけづくりに

「アプローチ・カリキュラム」

ワークシートも作成 第1時・第2時・第3時

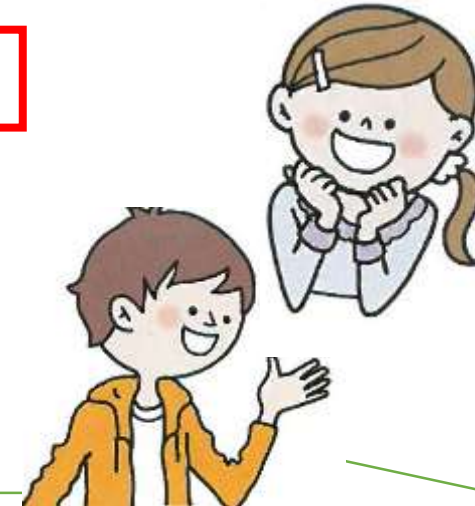
アプローチ:1時 Worksheet①

Hello!

Name



he, sheを使って、友達のことを紹介する。



自己紹介を通して、中学校英語科教員とその場でやり取りをする。

「We Can!」で学んだ自分のことを表す表現等を使って自己紹介する。

なめらかな接続

★各学校で、児童の実態に応じて、書く英語の量や活動内容について、調整して下さい。大切なのは、中学校英語科教員の授業で中学校の授業スタイルを経験することと、今までの学習の成果を児童自身が感じて、中学校の先生からも褒めてもらって自信を持つことです。中学校へのよい橋渡しが、この3時間のカリキュラムでできることを願っています。ぜひ、ご活用下さい